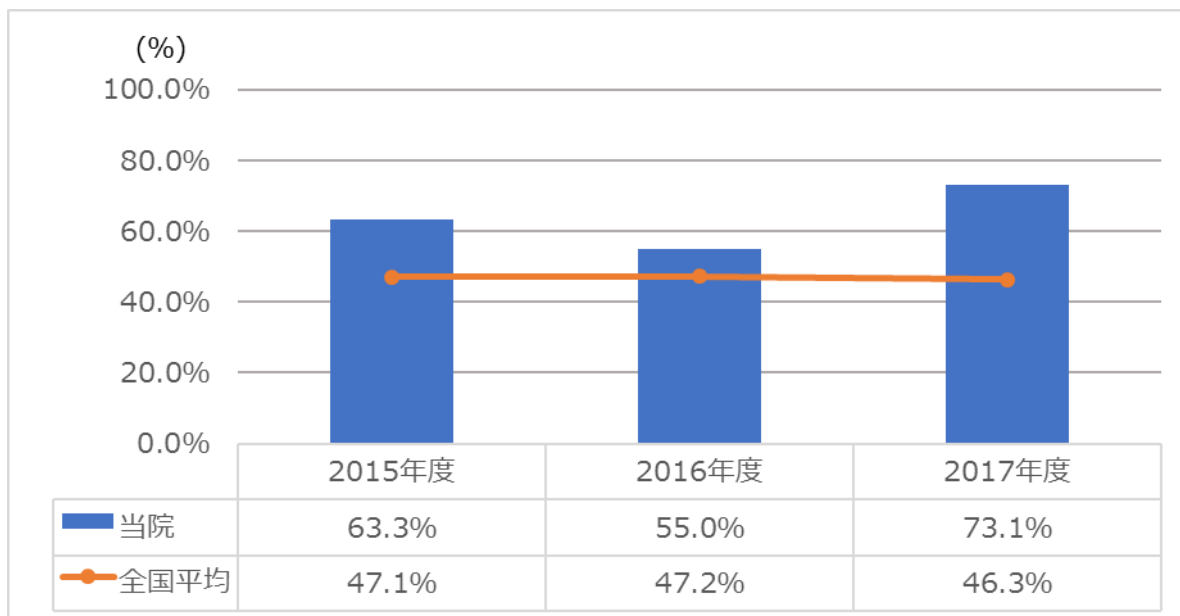


指標 10 急性胆嚢炎に対する入院 2 日以内の超音波検査実施割合



<定義>

分子	: 分母のうち、入院日から 2 日以内に超音波検査が実施された症例
分母	: 急性胆嚢炎で入院した症例
期間	: 2015 年度～2017 年度（1 年毎に集計）
対象	: 上記期間の退院患者
値の解釈	: 高い方が望ましい

<解説>

超音波検査とは、人には聞こえない音波を体にあて反射波を画像にする体への負担の少ない画像診断方法であり、急性胆管炎や急性胆嚢炎を診断する際の基本的な検査となっています。病気の発症後早期に検査することによって胆嚢炎の重症度、広がり、周辺臓器への影響等を知ることができ、的確な診断、治療方針の決定に有用です。

※ 本データは厚生労働省提出用の DPC データを基に作成されています。また、全国平均の値については、当院が参加している「医療の質と経済性に関する実態調査【京都大学大学院 QIP 事業】」における「医療の質の指標」の計測結果（事業に参加する全国の病院の平均値）を用いています。

【参考 URL】

<http://www.kch.kagoshima.jp/about/qip.html>（当院の QIP 参加について）

<http://med-econ.umin.ac.jp/QIP/CI.html>（QIP における計測結果）